

ゆりかもめ

yurikamome



巻 頭 言 敦賀俳句作家協会 会 長 中 者 正 機

氣比神宮の境内にある松尾芭蕉の銅像は、昭和五十七年に建立されたもので、台座の石には芭蕉が奥の細道の旅で詠んだ「月清し遊行のもてる砂の上」の句が刻まれている。そして少し離れたところに、「なみだしくや遊行のもてる砂の露」の句碑がある。この句は「月清し」句の原句であり、芭蕉が宿の亭主から二代遊行上人の参道工事の話聞き、涙を流さんばかりに感動して詠んだ句といわれている。比べると芭蕉の句づくりが見えて、興味深いものがある。敦賀は芭蕉の「奥の細道」の旅における「杖措きの地」と呼ばれていて、芭蕉は世話になった敦賀の宿に、旅の笠と杖をお礼に残した。杖は現在も残されているが笠はない。芭蕉は「奥の細道」の旅の締めくくりに、敦賀の中秋の名月を見どころとしているので、敦賀市は平成十五年に町おこしの一環として、市主催の「奥の細道」つるが芭蕉紀行第一回全国俳句大会を開催した。運営は港都つるが（株）が中核となつて俳句の募集を行うとともに、氣比神宮、色ヶ浜、金ヶ崎を吟行地として大会を開催した。十二回目以降は敦賀俳句作家協会が主催、敦賀市、敦賀市教育委員会の共催により開催され、今回二十回目の大会を迎える。市民の皆様の積極的なご参加をお待ちしています。



ごあいさつ

神楽町1丁目商店街 理事長 中山喜美子

はじめまして。神楽町1丁目商店街理事長の中山喜美子です。神楽町1丁目商店街は、越前國一之宮「氣比神宮」の表参道として古くから栄え、地元敦賀の人たちや観光客の皆様に愛されています。由緒ある氣比神宮の門前町にふさわしく特別感のある商品を扱う老舗専門店が軒を連ねるとともに、2024年春の新幹線敦賀開業に向けて新しいお店の増え老若男女が楽しめる商店街へと進化しています。商店街のよさは何といても店主とお客様の楽しい会話だと思います。氣比神宮で旅の安全をお祈りした後に商店街を訪れて下さる方に、敦賀の美味しいもの、名所など地元ならではのネタをお伝えするのと、敦賀をもっともっと楽しんでもう一度来たい！次は嶺南各地に足を延ばしてみよう！と思っていただけに、まずは私たち自らが地元の魅力を深掘りする取り組みを始めています。神楽町1丁目商店街からみる「氣比神宮」のぼる月」は絶景です。2021年、日本百名月に認定されています。松尾芭蕉が歩いた商店街を巡って、芭蕉が愛した月を愛でる。素敵だと思いませんか？皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

- 特別展 没後100周年記念展「内海吉堂」 9月14日(木)～11月5日(日)
近代の郷土画家・内海吉堂（うつみきちどう）の没後100年にあたり、敦賀で生まれ、京都画壇で活躍した吉堂の画業について、福井や滋賀、京都など各地にのこされた資料から顧みます。
- 特集展示「いちにんびやくしょう 一市野々の柴田権右衛門さん」11月8日(水)～12月17日(日)
1661年、栗野に市野々村が誕生しました。この事業を遂げた柴田権右衛門は、一村一百姓として代々村を守りぬきました。その屋敷は、今年度新たに一般公開されます。これを記念した展示です。

☆福井県立歴史博物館

- 特別展「描かれた川と人々～越前・若狭の利水の歴史～」10月21日(土)～11月26日(日)
日本においては、川は輸送路や農業用水などとして利用され、今なお人々の日常に不可欠なものです。主に、江戸時代以降の川やその利用の様子を描いた資料を展示します。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス(敦賀観光案内サイト漫遊敦賀)からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167
FAX 0770-22-8197
<https://www.turuga.org>

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056
敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

皆さんは俳句に感動したことはありませんか？随分前の事です。ボランティアの県外研修で石山寺に行ったとき、メンバーの一人が詠んだ句に感動したことがあります。梅雨の時期、折から激しく雨が降っていて、強い雨に打たれた蛙がゆつくりと岩陰に向かう様子を見て、その蛙のゆつくりとした動きと雨の音を見事に著わして感動しました。私はと言うとあまりの雨の多さに季重ねをして、つくづく自分には向いていないと思っただ次第です。おくのほそ道の出発地、江戸・深川を訪ねたことがあります。今にも旅立ちそうな松尾芭蕉の座る「採茶庵跡」があり、近くの芭蕉ゆかりの地が綺麗に維持され、更に江東区芭蕉記念館には多くの展示があり充実しています。当日、その記念館では俳句のセミナーが開催されていて小、中学生と思いき生徒さん達の姿も少なからず見えました。敦賀では、10月29日、つるが芭蕉紀行第20回全国俳句大会が開かれます。おくのほそ道の杖措きの地で俳句を始めてみませんか。(将)

編集後記

敦賀のみづいろ

⑧

松尾芭蕉と杖措きの地

三百年あまり読み継がれてなお、多くの人の心を動かし続ける「おくのほそ道」の作者松尾芭蕉は、中秋の名月の前日、元禄2年8月14日（西暦1689年9月27日）夕刻、念願の敦賀に到着しました。敦賀の人々は芭蕉を歓迎し、おおいにもてなしました。敦賀満喫の旅を終えると、逗留宿に笠と竹杖（市指定文化財）を残していきました。敦賀は芭蕉の「杖措きの地（つえおきのち）」と言われています。

敦賀を旅する三つの願い

芭蕉の敦賀来訪には、尊敬してやまない西行法師の「歌枕の地」敦賀を巡りたい、中秋の名月を敦賀の湊で鑑賞したい、当時すでに有名であった「氣比大明神」に参詣したいという三つの願いがあったといわれています。

芭蕉はこの願いのどれをも、おおよそ叶えました。

敦賀での足跡

氣比の海

国々の八景更に

氣比の月

（「荊口句帳」表記より）

中秋の名月の前日、この日は晴天で、夕方、福井の弟子洞哉とともに唐仁橋（現在の相生町）「出雲屋」で旅装を解いた芭蕉は、宿の主人弥市郎と酒を酌み交わし、氣比の宮に夜参しました。芭蕉たちは、皓々と光る月の中、今の神楽通りあたりを通りました。



氣比神宮にのぼる月

その行く手には、中秋の名月とほぼ変わらぬ神々しく輝く月が、大鳥居のちょうど右斜め上にのぼっていたことでしょう。「氣比神宮にのぼる月」が「日本百名月」に認定されています。芭蕉たちがくぐった大鳥居、修復は繰り返されていますが、今も私たちがくぐる大鳥居と同じなのも、とても感慨深いものです。

上人による代替わりの「お砂持ち神事」がありました。芭蕉はそのことを聞いたでありましょう。

そして、今年5月14日、遊行七十五世上人による「お砂持ち神事」が行われました。

月清し

遊行のもてる 砂の上

（「おくのほそ道」掲載）

初案※なみたしくや

遊行のもてる砂の露

待望の中秋の名月当夜は、宿の主人の言葉通り雨が降り、

名月や

北国日和 定なき

（「おくのほそ道」掲載）

非常に残念なことがらも名句にする芭蕉はとてもステキだと思えます。

雨のつれづれを慰めようと、芭蕉を心待ちにしていた、敦賀きつての俳人天屋玄流は、

芭蕉をさっそく金ヶ崎の金前寺へ案内します。ここで金ヶ崎城にまつわる南北朝悲話や伝説などを聞いて雨の一日を清遊しました。

月いつく

鐘は沈る うみのそこ



金前寺境内にある鐘塚

翌日16日は快晴。ついに、西行が「しほそむるますをのこ貝ひろふとて いろの濱とはいふにやあるらむ」（「山家集」）と詠んだ色ヶ浜へ！玄流の用意した舟で、酒や食事や大勢とともに渡りました。

た。とても楽しそう！

浜の本隆寺に入り、お茶やあたためた酒を飲んで清談します。浜辺で子どもたちとますほの小貝を拾い、盃に浮かべ、風雅に遊びました。

この年が西行の500回忌にあたることを胸深く思いながら、侘びさびのあふれる一日を過ごしたと言えます。

寂しさや

須磨にかちたる 濱の秋

波の間や

衣着て

小貝拾はん いろの月

小萩ちれ

ますほの小貝 小盃

この日のあらましを俳文（「色ヶ浜遊記」敦賀市指定文化財）にして、同行の洞哉

ガイドつるがの取組み紹介

ガイド活動・小刀根トンネル

市内研修・吉継ゆかりの地 私たちは、自らの研鑽を図るため、県内で活動する仲間とともに、また、独自に取組み、各種研修を行っています。

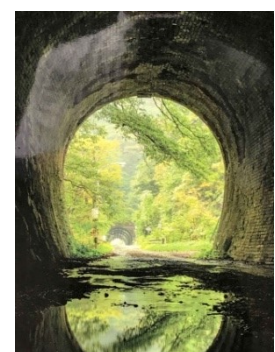
今回は、私たちが提案している街歩きコースの内の『敦賀の歴史探訪コース・大谷吉継ゆかりの地を辿る』について、7月26日、メンバー10名で現地研修を行いました。

敦賀市立博物館で、坂東佳子学芸員による講義と隣接する「みなとつるが山車会館」の別館展示室の大谷吉継コーナーで説明を受け、石田三成との関係や関ヶ原での活躍などについて質疑がありました。

その後は、吉継ゆかりの永賞寺と敦賀城の跡地・西小学校近辺では、メンバーがお互いの知識を確認しあい疑問にも答え、来迎寺ではお寺の奥様から吉継ゆかりの障子や中門などの説明を伺いました。

各メンバーは熱

心に説明に聞き入り、自らの知識のレベルアップを図っていました。



水溜まりに映る景色は美しいですが歩くには・・・。

「おくのほそ道」素龍清書本

（国指定重要文化財）

芭蕉が完成させ、柏木素龍に清書を依頼し、表紙には自筆の題簽を付して、自身ずつと所持したものです。

「細道伝来記」とともに、敦賀新道野の西村家に伝わり、今も大事に秘蔵されています。

おくのほそ道の風景地

「けいの明神（氣比神宮境内）」

「おくのほそ道」「曾良旅日記」に記された優秀な風景を伝える場所として、国の名勝に指定されています。

金前寺境内の鐘塚

（市指定文化財）

敦賀の俳人たちが1761年に建立した、県内最初の芭蕉句碑です。

主な芭蕉の句碑めぐり



北陸自動車道上り 杉津PA句碑



真願寺に残る敦賀城の礎石を前に研修中